

# 令和5年度 普及活動成果集



朝倉市志波（平榎地区）の見晴台から望む柿の紅葉  
（志波地区は平成29年豪雨により被災、見晴台は地域復興のシンボルとして令和3年に整備）

福岡県朝倉農林事務所  
朝倉普及指導センター

# はじめに

朝倉地域の農業・農村では、平成29年7月九州北部豪雨災害からの復興に取り組むさなか、令和5年梅雨前線豪雨（7月7～10日）により再度、多くの被害が発生しました。改めて、お見舞い申し上げます。また、そのような状況に対して、JA部会や関係者の多くの方々が有志で果樹園や園芸施設内の流入土砂撤去を行うなど、被災された農家の皆さんの力になろうと取り組まれました。6年前に被災した経験を活かしたこのような自主的活動に敬意を表します。

さて、管内の生産部会、営農組織や関係機関・団体の協議会などは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3年以上に渡り活動を制限されました。しかし、令和5年5月に本病の感染症法上の位置づけが5類に移行したことから、各組織の総会並びに研修会、講習会、連絡会等も再開し、以前の活気が戻ってきました。

また、平成29年災で特に被害が甚大で改良復旧が必要になった朝倉市の中山間地域においても、徐々に復旧農地で耕作されるまでになってきました。さらに、東峰村では同年に被災したJR日田彦山線が、令和5年8月28日に、バス高速輸送システム「BRTひこぼしライン」として新たに開業し、多くの人々が利用しています。地域の足としてだけでなく、観光や地域・農業振興のツールとしても活用が期待されるところです。

一方で、国際情勢の影響により、燃油・肥料・飼料等の資材価格は高騰し、気象面では7月豪雨に加えて、8月の猛暑、9月以降の少雨など、厳しい環境となりました。また、令和5年10月にはインボイス制度が始まり、令和6年4月からは「物流2024年問題」を控えるなど、外部要因による大きな変化への対応も課題となっています。

これまで当センターは、「農家の皆様に寄り添う」を念頭に、農業者リーダーや関係機関・団体の皆様と連携しながら、課題解決に向けて普及指導活動に積極的に取り組んで参りました。

本冊子は、令和5年度の活動の成果やトピックスをとりまとめたものです。すべてを網羅することはできませんが、成果が得られたものや特徴的な現場の動きを掲載しています。今後の営農に参考となれば幸いです。

当センターは、引き続き、災害復興支援、新規就農者確保と育成、担い手の経営力強化に重点的に取り組むとともに、新しい課題にも真摯に向き合い、朝倉地域の農業・農村の活性化と発展に向けて職員一同尽力していきたいと思っております。今後とも、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長  
真鍋 泰之

# 目 次

## 1 普及活動の成果

- ( 1 ) 復旧から復興へ朝倉地域農業の再生 . . . . . 1
- ( 2 ) 若手農業者支援を核とした筑前町農業の活性化 . . . . . 3
- ( 3 ) 朝倉地域における新規就農者の確保、育成 . . . . . 5
- ( 4 ) 水稻・麦類・大豆の品種転換 . . . . . 6
- ( 5 ) アスパラガスの産地力強化 . . . . . 7
- ( 6 ) ICT活用による施設野菜の収量向上 . . . . . 8
- ( 7 ) 産地の次世代を担う花き経営体の育成 . . . . . 9
- ( 8 ) カキ「秋王」の収量確保による産地活性化 . . . . . 10

## 2 トピックス（注目の活動・技術・表彰紹介）

- ( 1 ) 大豆新品種「ふくよかまる」へ品種転換 . . . . . 11
- ( 2 ) 鉢物リンドウ新品種の育成 . . . . . 11
- ( 3 ) 早期経営確立に向けた果樹モデル園づくり . . . . . 12
- ( 4 ) 若手酪農家の基礎技術向上を目指して . . . . . 12
- ( 5 ) 令和5年度福岡県青年農業者会議において重松良輔氏が優秀賞を受賞 . . . . . 13
- ( 6 ) 令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会において廣田孝男氏が優良賞を受賞 . . . 13
- ( 7 ) 令和5年度福岡県麦作共励会において松尾智彰氏が優良賞を受賞 . . . . . 14
- ( 8 ) 令和5年度福岡県花き品評会において井本正利氏が県知事賞を受賞 . . . . . 14
- ( 9 ) 愛知豊明花き全国鉢物品評会2023において和佐野礼子氏が入賞 . . . . . 15
- ( 10 ) 第25回全国果樹技術・経営コンクールにおいて  
JA筑前あさくらかき部会が農林水産省農産局長賞受賞 . . . . . 15
- ( 11 ) 第59回福岡県肉畜共進会において堀内幸浩氏が銀賞を受賞 . . . . . 16
- ( 12 ) 第4回福岡県肉用種牛共進会において上野修司氏が最優秀賞2席を受賞 . . . . 16

## 3 参考資料

- ( 1 ) 令和5年の気象概況および生産概況 . . . . . 17
- ( 2 ) 令和5年度主な展示ほの概要 . . . . . 20
- ( 3 ) 令和5年度普及指導センター活動情報一覧 . . . . . 21
- ( 4 ) 普及指導センターの活動体制（令和5年度） . . . . . 23

# 1 普及活動の成果

## 1 復旧から復興へ朝倉地域農業の再生

実施期間：令和3年度～令和5年度

朝倉地域は平成29年7月九州北部豪雨災害により甚大な被害を受けました。特に被害の大きかった中山間地域では一部の農地が復旧し営農が再開されていますが、令和5年7月の豪雨により河川や農地が再度被災したため、復旧工事が完了するまでには、まだまだ時間を要します。

朝倉市においては、被災した中山間地域の将来の姿(営農ビジョン)を描き、実践するための支援や地域農業をリードする複合経営体の育成に取り組みました。

東峰村においては、新たな農産物導入や特産品の認定を促すとともに、持続的に営農できるような地域づくりの支援に取り組みました。

### 対象の概況

朝倉市 (R3年度)		東峰村 (R3年度)	
<b>中山間地域</b>	うち区画整理型復旧農地	<b>支援対象</b>	<b>対象数</b>
旧甘木市高木村、 旧朝倉町、旧杷木町	9河川19地区 198ha	モデル集落	2地区
複合経営取組数	17件	道の駅小石原出荷組合	175名
		つづみの里出荷者	212名
		契約コショウ出荷者	34名
		加工用ユズ出荷者	54名

### 活動の内容

#### (1)朝倉市農業の復興

黒川地区では、「黒川地区の農業(未来)を考える会」や「黒川の農地を守る会」に対して、農地を守り、利活用する組織設立に向けた合意形成を支援しました。松末地区では、復旧農地の営農意向調査をもとに営農ビジョン作成に向けた協議を支援しました。果樹園が主体の政所、平榎、中宮野、塚原地区では、営農意向を地図上に落としとして見える化した園地マップづくり(営農ビジョン作成)やビジョン実践(営農を辞める意向の園地への対応)を支援しました。また、カキ園地を対象に、補助事業を活用した荒廃園地対策を推進しました。

#### (2)朝倉市複合経営体の育成

複合経営に取り組む農家に対して経営・技術支援を行うとともに、複合経営の取り組みに対する満足度調査や経営調査を行いました。

#### (3)東峰村農業の復興

関係機関と連携して、特産品の認定、新たな農産物の導入や定着、6次化商品の開発を支援しました。



園地マップづくり

# 成 果

## (1)朝倉市農業の復興

### ○営農ビジョンの作成

松末地区では、営農検討部会「チームますえ」により、組織をつくって復旧農地を守っていくという方針が決定されました。

塚原地区では営農意向調査により、営農ビジョン(園地マップ)が作成されました。

### ○営農ビジョンの達成

高齢でカキ栽培が続けられない園地の対応について地域内協議を支援し、平榎地区では地域内の農家へ園地が引き継がれることが決まり、中宮野地区では地域担い手による伐採が実施されました。これらの取り組みにより、耕作放棄地の発生を未然に防ぐことができました。

黒川地区では、地域の農地や資源を守り、利活用する組織として「一般社団法人くろがわ」が設立され、ビジョン実践がさらに一歩進みました。

### ○カキ荒廃園地の改善対策

中宮野地区と塚原地区で伐採事業が実施されました。



一般社団法人くろがわ設立総会

## (2)朝倉市複合経営体の育成

九州北部豪雨被災産地復興加速化支援事業を活用して、復旧農地で新たにブドウ、イチゴ、トマトの3件が導入され、被災後に複合経営に取り組む農家数は延べ29件となりました。

また、複合経営の取り組みに満足している農家が多く、特にリスク分散や技術支援への満足度が高いことが明らかとなりました。



認定特産品「東峰村の小さな宝」

## (3)東峰村農業の復興

### ○特産品の認定

認定制度の理解協力が進み、新たに加工品4品が認定され、認定数は27品目となりました。

## 今後の取り組み

朝倉市農業の復興に向けて、関係機関と連携して以下に取り組みます。

黒川地区では、一般社団法人くろがわの運営支援を通して、地域の農地を守る取り組みを支援します。松末地区では、「チームますえ」による営農ビジョンの実践(復旧農地を荒廃地化させないための仕組みづくり)を支援します。

果樹栽培が盛んな地区では、園地を守り永続的に営農できるよう、営農ビジョンの実践を支援します。新規品目の導入を目指す農家に対しては、複合経営事例の調査結果をもとに品目組み合わせを提案し、経営強化を支援します。既に複合経営に取り組む農家に対しては、個別課題に応じて経営や栽培技術支援を継続します。

東峰村の農業振興については、東峰村農林業振興協議会の活動と連携して引き続き支援します。

## 2 若手農業者支援を核とした筑前町農業の活性化

実施期間：令和3年度～令和5年度

筑前町では、米・麦・大豆を中心に野菜や果樹の生産が盛んに行われており、福岡都市圏に隣接する地の利を活かした農業が行われています。

近年、若手農業者への世代交代が順調に進み、30～40代の農業者を中心に活発な農産物の生産が行われています。一方、果樹では城山地区のナシ団地でナシの生産が行われてますが、高齢化により、園地の荒廃が懸念されています。

そこで、更なる筑前町農業の活性化を図るために、地域の核となる若手農業者の経営確立に向けた経営計画の策定および実践支援を行いました。また、城山ナシ団地については、生産者の意向を反映した未来予想図(園地マップ)を作成し、課題の共有化を図りました。

### 対象の概況

(R5年4月)

支援対象	対象数
筑前町若手農業者	60経営体
城山ナシ団地生産者	21経営体

※筑前町若手農業者：  
20代から40代の農家

※城山ナシ団地生産者：  
城山地区でナシを生産する農家

### 活動の内容

#### (1)若手農業者の経営確立

若手支援チーム会議を定期的に行い、関係機関と情報共有を図りながら、連携して活動しました。R3年度以降に新規就農した5経営体には新たに個別カウンセリングを行いました。経営計画策定支援については、意欲のある4経営体の経営計画策定を支援しました。これまでに経営計画を策定した9経営体に対しては、今年度の計画が実践できるように支援を行いました。

また、カウンセリングやアンケートの結果から若手農業者が経営上の課題について関心が高いことが分かったため、昨年度に引き続き、経営に関する研修会を開催しました。今年度は、公認会計士を講師に「財務管理について」と題した研修会を7月と11月の2回行い、経営意欲の向上を図りました。

#### (2)城山ナシ団地の維持・振興

関係機関と連携して戦略会議を開き、規模拡大や縮小といった営農意向の情報を共有しました。

また、城山地区の生産者全員を対象に、団地の将来を考える座談会を開催しました。



# 成果

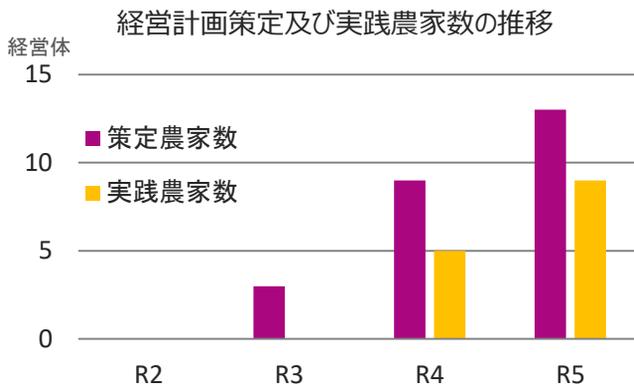
## (1)若手農業者の経営確立

### ○経営計画の策定

経営計画の策定を希望した方のうち、今年度さらに4経営体が経営計画の策定を完了しました。

### ○経営計画の実践

昨年度までに経営計画を策定した9経営体に対して関係機関と連携し、作成した計画が実践できるよう、随時支援を行いました。その結果、9経営体全てで計画が実践できました。



## (2)城山ナシ団地の維持・振興

個別ヒアリングの結果をもとに、経営規模に係る営農意向を反映した団地の未来予想図(園地マップ)を作成しました。

城山ナシ団地の生産者全員を対象とした座談会で未来予想図を提示し、生産者や関係機関と城山ナシ団地の今後の課題を認識しました。



## 今後の取り組み

経営計画を策定した若手農業者に対しては、関係機関と連携し、引き続き計画実現のための実践支援を行います。さらに、経営意欲向上のために若手農業者を対象とした研修会についても開催します。

城山ナシ団地については、座談会を開催したことで生産者や関係機関と課題の共有化が図れたため、今後、生産者からの要望に応じて関係機関と連携し支援します。

以上の活動は、筑前町連絡会や若手支援チーム会議を開催することで、情報共有を図りながら、進めていきます。

## 朝倉地域における新規就農者の確保、育成

実施期間：令和5年度～令和7年度

農業の担い手が減少する中、朝倉地域の農業を維持・発展していくためには新規就農者の確保が必要です。また、当地域では毎年10名程度が新たに農業経営を開始しており、新規就農者の早期経営安定が重要な課題となっています。

そこで、関係機関と連携し、新規就農者の確保、育成に取り組みました。

### 対象の概況

#### (1)新規就農者の確保

- ・新規就農相談者(R4) 43名
- ・新規就農センター研修生合格者(R4) 2名

#### (2)新規就農者の育成

- ・新規就農者(親元就農除く)(H30～R4)  
36経営体
- うち経営開始資金受給者 25経営体

### 活動の内容

#### (1)新規就農者の確保

関係機関と連携して新規就農相談を随時行い、品目選定や経営開始に必要な準備について助言しました。

新規就農センター研修生に対しては、栽培技術や経営に関する講座を開催し、就農に向けた準備を支援しました。

#### (2)新規就農者の育成

新規就農者の経営安定のため、関係機関や品目担当係と連携し、現地指導や経営相談など個別の課題に応じた支援を行いました。



新規就農者への技術指導

### 成果

#### (1)新規就農者の確保

新たに14名の新規就農者を確保できました。また、2名の新規就農センター研修生を確保できました。

・新規就農者数 14名

・新規就農センター研修生合格者数 2名



新規就農相談

#### (2)新規就農者の育成

経営開始5年目の新規就農者4名のうち、3名が青年等就農計画の売上目標を達成しました。

・青年等就農計画達成率

( R4:67% → R5:75% )

	品目	達成	対目標比 (%)
A	施設野菜	○	137
B	施設野菜	×	55
C	露地野菜	○	145
D	施設野菜	○	157

### 今後の取り組み

引き続き関係機関と連携し、就農相談会の実施や新規就農者の早期経営安定に向けた技術・経営支援を行います。

## 水稲・麦類・大豆の品種転換

実施期間：令和4年度～令和5年度

福岡県が育成した中山間地域向けの水稲新品種「恵つくし」、中華麺用の小麦品種「ラー麦」、早播きが可能な大豆新品種「ふくよかまる」について、米・麦・大豆生産者へ品種特性を周知するとともに収量や品質の確保による生産意欲の向上を図ることで、速やかな品種転換を目指しました。

### 対象の概況

水稲：「つくしろまん」作付面積	39ha
麦類：「ラー麦」作付面積	154ha
大豆：作付面積 (うち採種ほ)	1,217ha (80ha)

### 活動の内容

#### (1)水稲新品種の推進

関係機関と連携し、「恵つくし」の展示ほ設置や生産者への聞き取り調査を行い、地域適応性を明らかにしました。

#### (2)小麦の安定生産

「ラー麦」生産者に対して、講習会の開催や情報提供を行うとともに、タンパク質含有率の低かった生産者について原因分析と重点支援を行いました。

#### (3)大豆の安定生産

講習会等で「ふくよかまる」の品種特性や栽培上の注意点を周知し、速やかな品種転換を図りました。

また、品種の切り替えを機に種子生産を含めた収量の確保を図りました。



### 成果

#### (1)水稲新品種の推進

「恵つくし」のいもち病に強い点や食味・収量性が評価され、作付面積が拡大し、収量が増加しました。

・「恵つくし」作付面積(R3:0ha→R5:6ha)  
・収量(R3:360kg/10a→R5:506kg/10a)

#### (2)小麦の安定生産

「ラー麦」の穂揃い期追肥の増量を図るとともに、個別農家への重点支援を行ったことでタンパク質含有率が向上しました。

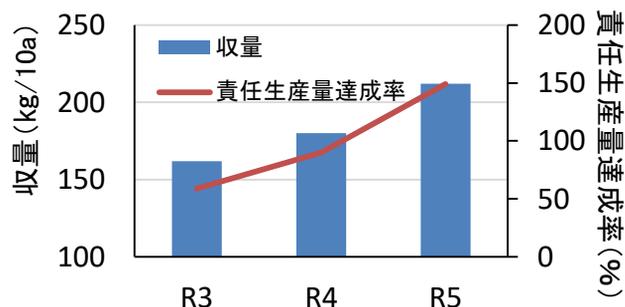
・ラー麦のタンパク質含有率  
(R3:11.8%→R5:12.6%)

#### (3)大豆の安定生産

「ふくよかまる」の特性等を周知したため、計画通りに品種転換が図られました。

また、栽培情報等で乾燥対策や補正防除の指導を徹底したため、収量目標の200kg/10a、種子の責任生産量達成率目標の100%を達成しました。

・「ふくよかまる」の作付面積  
(R3:2ha→R5:1,217ha)



### 今後の取り組み

今後も関係機関と連携し、水稲・麦類・大豆の生産振興を通して朝倉地域の水田農業の発展を支援します。

# アスパラガスの産地力強化

実施期間：令和3年度～令和5年度

管内のアスパラガスは、新規就農等により栽培面積が増加しているため、新植生産者を対象に技術習得を支援しました。

また、生産性向上を目的に、複合品目との作業競合の回避と収益性の両立につながる追加立茎技術の普及推進を図りました。

## 対象の概況

JA筑前あさくらアスパラガス部会  
(令和5年産)

栽培面積 (ha)	5.8
生産者数 (戸)	35
うち新植生産者数 (戸)	16

## 活動の内容

### (1) 新植生産者の生産安定

アスパラガスは、定植前後数年の管理がその後の収量に大きく影響するため、新植生産者を対象とした講習会や巡回による重点指導を実施しました。

### (2) 生産性向上対策

高収量生産者の栽培実態調査を基に、栽培講習会で管理指導を行いました。併せて定期的な巡回指導で管理の徹底を図りました。

また、追加立茎技術について、作業時間や出荷実績を踏まえ、導入農家による現地検討会を実施しました。



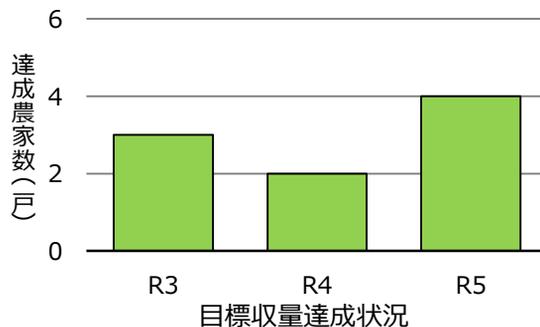
立茎技術検討会

## 成果

### (1) 新植生産者の生産安定

新植してから3年目に収量目標10aあたり3.0tを達成した農家を9名育成しました。

#### ・新植3年目の収量目標達成農家数



### (2) 生産性向上対策

秋季管理と初春管理の徹底により、春芽の品質を向上させることで、10aあたり販売額350万円達成農家を8戸育成しました。また、作業競合回避のための追加立茎技術導入農家を12戸増やしました。

#### ・販売額目標達成農家数

( R2:4戸 → R5:12戸 )

#### ・追加立茎技術導入農家数

( R2:2戸 → R5:14戸 )

## 今後の取り組み

引き続き、定植前後数年の管理を徹底するための現地巡回を行います。特に、収穫後の適正管理と立茎期のかん水管理については、重点的に啓発・指導します。

夏季高温対策の徹底や追加立茎技術の活用等により、品質向上を図ります。

# ICT活用による施設野菜の収量向上

実施期間：令和3年度～令和5年度

施設野菜栽培農家では、環境測定機器(以下、ICT機器)を導入する農家が増加していますが、環境管理や栽培管理に十分活かされていない状況でした。そこで、品目の垣根を越えた研究会を組織し、ICT機器を活用した環境測定や環境制御技術の知識習得を図ることで、適正な管理技術の確立により収量品質の向上を目指しました。

## 対象の概況

### ICT機器活用技術研究会(R2年発足)

(R5年度)

生産者数(戸)	18
環境測定機器導入戸数(戸)	13
環境制御機器※導入戸数(戸)	16

※制御機器には、炭酸ガス発生装置を含む

## 活動の内容

### (1)収量及び品質の向上

ICT機器活用を行う実証ほを設置し、ハウス内環境の見える化とともに、草勢に応じたハウス内環境の改善を推進しました。

### (2)栽培管理の見える化

環境制御技術向上研修会を開催し、環境測定や環境制御の方法や、ICT機器を活用した栽培を実践する農家の講演等を通して、ICT機器活用の知識習得と、生育の見える化を行う農家を育成しました。



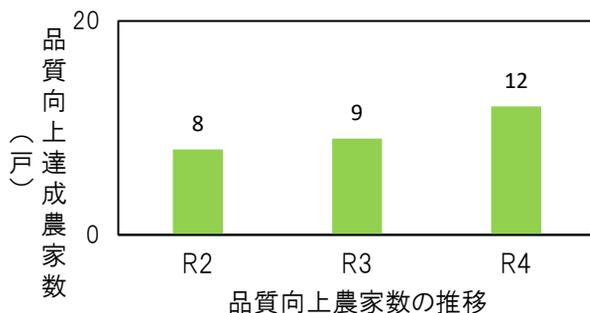
ICT機器活用技術研修会

## 成果

### (1)収量及び品質の向上

環境測定機器を設置した農家を中心に、バランスシートを用いた生育の見える化や個別巡回による栽培支援を実施したことで、ハウス内環境が改善され、個別の品質や収量目標を達成した農家が増加しました。

#### ・個別目標品質向上達成農家数



#### ・個別目標単収達成農家数

( R2:- → R5:6戸 )

### (2)栽培管理の見える化

研修会で生育調査や生育診断を行う事例を共有することで、自らが生育調査や生育診断を行うという機運が高まり、実践農家が増加しました。

#### ・生育調査・診断の実践農家数

( R2:- → R5:12戸 )

## 今後の取り組み

品目別の勉強会活動や個別支援により、ICT機器を活用した農家を引き続き支援します。

## 産地の次世代を担う花き経営体の育成

実施期間：令和3年度～令和5年度

朝倉地域の花壇苗や鉢物生産においては近年世代交代が進んでおり、今後も産地を維持していくためには、後継者や若手生産者を次世代の経営者として育成していく必要があります。

そこで、個別面談により目標を明確化するとともに、目標達成のために必要な支援を行いました。

### 対象の概況

	(R5年度)
花壇用苗物生産者 (うちフローラクラブ)	4戸 (3戸)
JA筑前あさくら鉢花部会 鉢花生産者	2戸

※対象は、いずれも40代以下の若手生産者または後継者がいる経営体

### 活動の内容

#### (1) 個別面談と目標設定

対象農家と個別面談を行い、各農家の短期目標(2～3年後)と長期目標(5年後)を設定して(R3)、目標達成のための行動計画や年間作付計画の策定を支援しました(R3～5)。

#### (2) 目標達成に向けた個別支援

害虫によるロス率の低下・販売や管理技術のデータ化・品目転換・経営継承・法人化などの各農家の目標達成のため定期的な個別巡回や必要な情報提供を行いました。さらに、各農家の目標に応じて、先進的な防虫機器※1の試験や専門家※2の派遣を行いました。

※1: 緑色LED(ヤガ類対策)  
赤色LED(アザミウマ類対策)

※2: 社労士、公認会計士、税理士、司法書士、  
マーケティングコンサルタント



赤色LEDを試験中の花き施設

### 成果

#### (1) 個別面談と目標設定

対象農家全てが、改善目標の設定と年間作付計画の策定を達成しました。

・改善目標設定農家数  
( R2:0戸 → R5:6戸)

・年間作付計画策定農家数  
( R2:0戸 → R5:6戸)

#### (2) 目標達成に向けた個別支援

対象農家6戸のうち、4戸が目標を達成しました。

・改善目標達成農家数  
( R2:0戸 → R5:4戸)

対象農家	3年間で達成したこと
A	就業規則の整備 販売データ把握による経費分析
B	LEDを導入(害虫ロスの低下) 後継者が作付計画作成
C	品目転換、品種登録出願
D	後継者が受注管理技術をデータ化 (R6に法人化予定)
E	R5に経営継承
F	防除暦の作成

### 今後の取り組み

各農家の長期目標達成にむけて、引き続き支援を行っていきます。

# カキ「秋王」の収量確保による産地活性化

実施期間：令和3年度～令和5年度

福岡県が育成したカキ「秋王」は、大果で食味に優れる品種です。カキ生産者の経営安定と産地活性化を担う品種として普及推進を図ってきましたが、着果が不安定なことや果実外観品質の低下による生産者の栽培意欲減退が問題となっています。そこで、「秋王」の収量・品質確保による栽培意欲の向上を図ることで、産地活性化を目指しました。

## 対象の概況

### JA筑前あさくら かき部会「秋王」生産者

	R2	R3	R4
農家数（戸） ※うち重点対象農家16	93	91	93
栽培面積（ha）	9.5	9.8	9.7
出荷量（t） （加工品含む）	20.8	32.5	59.5

※重点対象農家：「秋王」栽培に意欲的で優良事例となりうる生産者

## 活動の内容

### (1)「秋王」の収量・品質確保

生産者の技術力向上のため、管理講習会や巡回指導を行い、安定生産に関する定期的な技術情報の提供を行いました。また、優良園調査を行い、横向きの枝を多く残すことで果実の結実が良くなることを明らかにしました。

### (2)「秋王」安定生産技術の確立と普及

重点対象農家に対し、モデル樹を設置し、着果及び品質向上対策の効果を示しました。また、高収量・高品質の優良園の視察を通して、安定生産技術の普及を図りました。



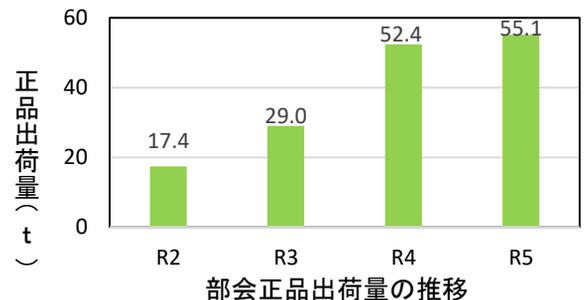
「秋王」の優良園視察

## 成果

### (1)「秋王」の収量・品質確保

講習会や巡回指導、情報提供を受けて、生産者が、着果及び外観向上対策の実施や適期管理を行いました。その結果、正品出荷量や単収が大きく増加しました。

#### ・部会正品出荷量(t)



#### ・重点対象農家の平均正品単収(kg/10a)

( R2:422 → R5:1,033 )

#### ・重点対象農家の平均正品果率

( R2:81% → R5:87% )

### (2)「秋王」安定生産技術の確立と普及

モデル樹の設置や優良園の視察により、着果及び外観向上対策の重要性を実感した生産者が増加しました。その結果、重点対象農家の対策実施率が向上しました。

#### ・重点対象農家の着果対策実施率

( R2:69% → R5:94% )

#### ・重点対象農家の外観向上対策実施率

( R2:25% → R5:100% )

## 今後の取り組み

優良園調査やモデル樹の設置で得られた結果を産地全体にフィードバックし、秋王の生産拡大とカキ産地の活性化を目指します。

## 2 トピックス(注目の活動・技術・表彰農家の紹介)

### 1 大豆新品種「ふくよかまる」へ品種転換

地域振興課 水田農業係

県育成の大豆新品種「ふくよかまる」は、「フクユタカ」に比べて、「草丈がやや低く倒伏に強い」「最下着莢高が高く収穫ロスが少ない」「百粒重が重く収量は8%多い」などの特徴を持っています。福岡県では令和7年産までに「フクユタカ」から「ふくよかまる」へ順次切り替えを行う計画です。朝倉普及センター管内では令和5年産より大豆の全面積を「ふくよかまる」に切り替える計画であり、普及センターは、関係機関と連携して展示ほを設置するとともに品種特性や栽培上の注意点を生産者に情報提供し、計画通りに全面積の品種転換を実現しました。

品種転換初年目となる令和5年産では、管内の平均単収は215kg/10a(荷受け重量の90%で算出)と過去10年間で1番の多収となりました。

今後も普及センターは、大豆の収量確保による農家の所得向上に向けて、関係機関と連携して支援していきます。



生育旺盛な「ふくよかまる」



適正な播種方法の確認

### 2 鉢物リンドウ新品種の育成

ここみやび

ここみれい

#### 「心美雅」が品種登録、さらに「心美零」を出願申請へ

園芸課 花き係

朝倉地域は、県内唯一の鉢物リンドウ産地です。「JA筑前あさくら鉢花部会リンドウ研究会」では、生産のみならず全員でオリジナル品種育成の取組も行っています。このため、普及センターでは、選抜系統の特性調査や出願申請資料の作成支援など新品種登録に向けた支援を行っています。

このたび、研究会が令和3年に出願申請していた「心美雅」が、農水省の厳密な審査の結果、令和6年春に正式に品種として登録されました。さらに、かねてより育成していた有望系統について、令和6年2月に新品種「心美零」として出願申請も実施しています。

今後も普及センターでは生産者組織の知的財産の取得および活用を推進していきます。



品種登録された「心美雅」



出願申請された「心美零」

### 3 早期経営確立に向けた果樹モデル園づくり

園芸課 果樹係

JA筑前あさくらは、新規果樹栽培者の確保に向けて、平成29年7月九州北部豪雨からの復旧農地に「朝倉フルーツファーム」を開所しました。フルーツファームでは、JAによって果樹棚やハウス等が設置され、早期に収益化できる品目であるスモモが植栽されました。これは、新規栽培者の早期技術習得や初期投資低減のモデルとして期待されています。

フルーツファームでは、地元生産者(ファームディレクター)が指導を受けながら生産管理を行うことで栽培技術を習得し、2年後の経営移譲を予定しています。普及指導センターは、開所に向けた早期成園化や省力化のための栽培技術や経営面の支援及び開所後のファームディレクターへの栽培管理指導を支援しました。

今後も普及指導センターでは、JAをはじめとする関係機関と連携して、新規栽培者の育成に繋がるよう支援を行っていきます。



関係者による技術管理の検討



朝倉フルーツファームの外観

### 4 若手酪農家の基礎技術向上を目指して

久留米普及指導センター 果樹畜産課 畜産係

厳しい情勢が続く中、ふくおか県酪協久留米支所青年部に対して11月と2月に講習会を開催しました。会では「ゲノミック評価の活用」や「子牛の寒冷対策」、「繁殖の改善」について当センターから講習を行うとともに、事業者を招いてスマート機器の「分娩監視装置」や「子牛体調監視装置」について説明をしました。出席者からは「日頃の飼養管理を見直すキッカケになった」、「すぐにでも装置を試してみたい」との感想があり、生産者同士でも活発な意見交換が行われました。

今後は、定期的な講習会の開催や、個別巡回指導、ICT機器の試験導入を通じて、若手酪農家の基礎技術の定着に取り組んでいきます。



講習会に参加する生産者



ICT機器の説明

(左：分娩監視装置、右：子牛体調監視装置)

## 5 令和5年度福岡県青年農業者会議において 重松良輔氏（朝倉市）が優秀賞を受賞

令和5年12月13日に開催された令和5年度福岡県青年農業者会議の「意見発表の部」において、朝倉市の重松良輔氏が優秀賞を受賞されました。

重松氏は、平成29年に発生した九州北部豪雨の災害ボランティアへの参加を機に、農業で朝倉地域の振興に携わりたいとの想いを抱き、令和元年に就農しました。

就農後は、農業に興味を持っている方々を呼び込み、管理や収穫の作業体験を通じて、朝倉地域を知ってもらう‘援農’という活動を、地域住民も巻き込んで行っています。朝倉地域に関心を持つ人を増やすことで、農繁期の作業支援の他、有事の際にも助け合える関係性を築いているところです。審査においてもこの点が高く評価されました。

なお、重松氏は令和6年度に宮崎県で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議に福岡県代表として出場する予定です。



## 6 令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会において 廣田孝男氏（筑前町）が優良賞を受賞

令和5年10月30日に令和4年度福岡県大豆作経営改善共進会の表彰式が行われ、筑前町の廣田孝男氏が優良賞を受賞されました。

廣田氏は、自身で大豆生産を行いながら地域の生産組合でも生産部門のリーダーを務めており、地域の重要な担い手です。

さらに、麦あとのほ場では事前耕起せず一工程で播種するなど省力化を積極的に行う、麦わら全量すきこみや土壌診断に基づき土壌改良資材を投入するなどの取り組みにより地域平均以上の高収量を確保していることなどが評価されました。



## 7 令和5年度福岡県麦作共励会において 松尾智彰氏（朝倉市）が優良賞を受賞

令和5年10月30日に令和5年度福岡県麦作共励会の表彰式が行われ、朝倉市の松尾智彰氏が優良賞を受賞されました。

松尾氏は、朝倉市の中でも有数の大規模土地利用型農業経営体であり、地域の重要な担い手です。また、家族経営で効率よく営農を行うため、農地の集約や計画的な作業の段取りなどの工夫を行っています。

さらに、収量・品質向上のため、ほ場の凹凸を無くすためのこまめなロータリー爪の交換や、ほ場の排水性のムラを考慮した弾丸暗渠の施工などの技術上の工夫を行い、地域平均以上の高収量を確保していることなどが評価されました。



松尾氏の受賞の様子

## 8 令和5年度福岡県花き品評会において 井本正利氏（朝倉市）が県知事賞を受賞

令和5年11月24日、福岡市の福岡花卉農業協同組合において、令和5年度福岡県花き品評会(産物の部)が行われ、朝倉市の井本正利氏がトルコギキョウ「セレブリッチホワイト」で、福岡県知事賞を受賞されました。

井本氏は今年6月下旬の大雨により栽培施設が被害を受けた上、その復旧工事等で計画どおりの定植が出来なかったということですが、苗定植後は例年以上にこまめな水管理を実施するとともに、枝整理等の栽培管理を徹底した結果、市場や消費者から求められる高品質な切花であることが評価され、今回の受賞となりました。



受賞された井本氏

## 9 愛知豊明花き全国鉢物品評会2023において 和佐野礼子氏（朝倉市）が入賞

愛知豊明花きは、国内最大の鉢物市場であり、全国各地から様々な鉢物が出荷されています。

令和5年11月15日に「全国鉢物品評会2023」が同市場にて行われ、各地の鉢物産地から出品された計256点の鉢物の中から、朝倉市の和佐野礼子氏（有）白鳥園の洋ランが入賞されました。

和佐野氏が出品された洋ランは、花色の鮮やかさが審査員の目を引くもので、その品質が高く評価され、今回の入賞となりました。

和佐野礼子氏は、後継者である娘二人と協力し、今後も優れた品質の洋ランをお客様に届けていきたいと語られています。



入賞の洋ラン



入賞された和佐野氏

## 10 第25回全国果樹技術・経営コンクールにおいて JA筑前あさくらかき部会が 農林水産省農産局長賞を受賞

令和6年2月15日に、第25回全国果樹技術・経営コンクールの表彰式が行われ、JA筑前あさくらかき部会が農林水産省農産局長賞を受賞されました。

平成29年九州北部豪雨災害では、かき栽培・集出荷に大きな影響をうけ、かき産地の大幅な縮小が懸念される事態となりました。そのような中、部会を中心とした災害時の復旧支援体制の構築や園地情報・営農意向の収集が行われてきました。併せて、被災前より取り組んでいる秋王などの優良品種の導入や品質向上、有利販売によって販売単価の向上や部会全体の販売額の維持が図られています。その結果、災害以前よりも部会員数や栽培面積の減少ペースは鈍化しました。これらの点が、災害からの復興を目指す産地のモデルとなることなどが評価されました。

第25回全国果樹技術・経営コンクール表彰式



表彰式にて賞状を受け取った  
日野部会長（中央）とJA職員（左右）

## 11 第59回福岡県肉畜共進会において 堀内幸浩氏（朝倉市）が銀賞を受賞

令和5年10月5日、JA全農ミートフーズ(株)において県内の畜産農家が肉畜の肥育技術の成果を競う福岡県肉畜共進会が開催され、和牛の部において、JA筑前あさくら肥育牛部会員である堀内幸浩氏(株堀内牧場代表)が銀賞を受賞されました。

和牛の部では、全出品牛52頭のうち、サシの入りを示すBMSナンバーが最高の12番が16頭というハイレベルな戦いとなりました。

堀内氏の銀賞受賞枝肉は、BMS12番であるのはもちろん、重量497.6kg・ロース芯面積102cm<sup>2</sup>、バラ厚8.9cm、皮下脂肪厚1.4cm、歩留基準値81.2%と非常に優れていると評価され、今回の受賞となりました。



## 12 第4回福岡県肉用種牛共進会 若雌1区において 上野修司氏（朝倉市）が最優秀賞2席を受賞

令和5年11月11日に、県農業大学校グラウンドにおいて、第4回福岡県肉用種牛共進会が開催されました。

この大会は、県内で黒毛和種繁殖雌牛の育成に取り組む農家が、将来母牛となる優秀な若雌(育成牛)を出品し、その資質や飼養管理技術などを競う和牛の品評会です。

県内から選び抜かれた雌牛19頭が出品され、うち若雌1区(12ヵ月齢～16ヵ月齢)の最優秀賞第2席に上野修司氏(朝倉市)の「ひさしげ号」が選ばれました。

また、上野氏は若雌2区(17ヵ月齢～20ヵ月齢)にも出品し、「はれゆり号」が最優秀賞第4席に選ばれ、ダブルの受賞となりました。

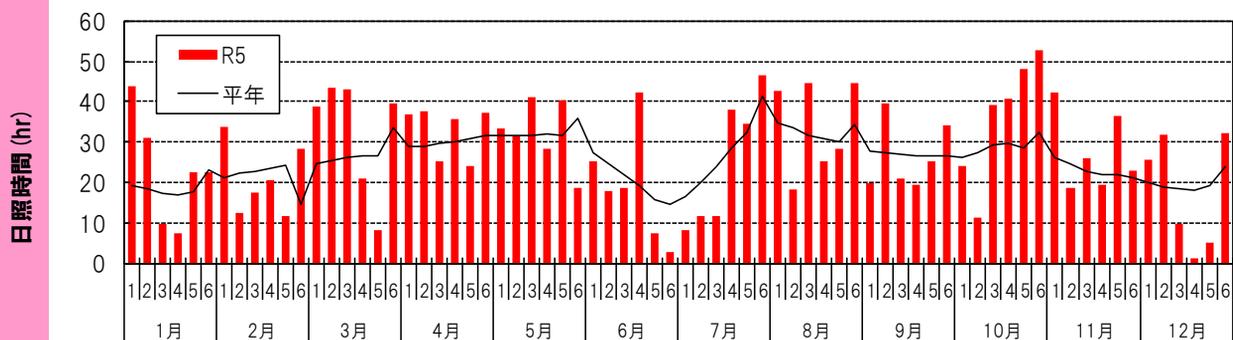
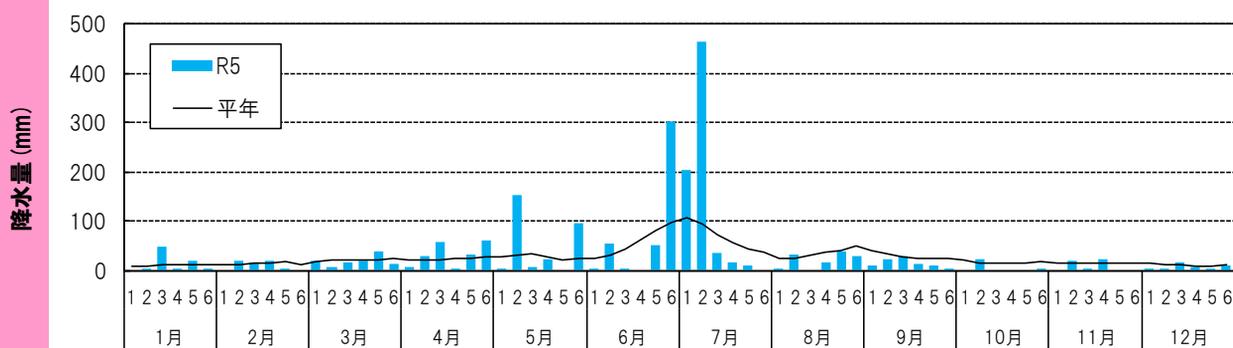
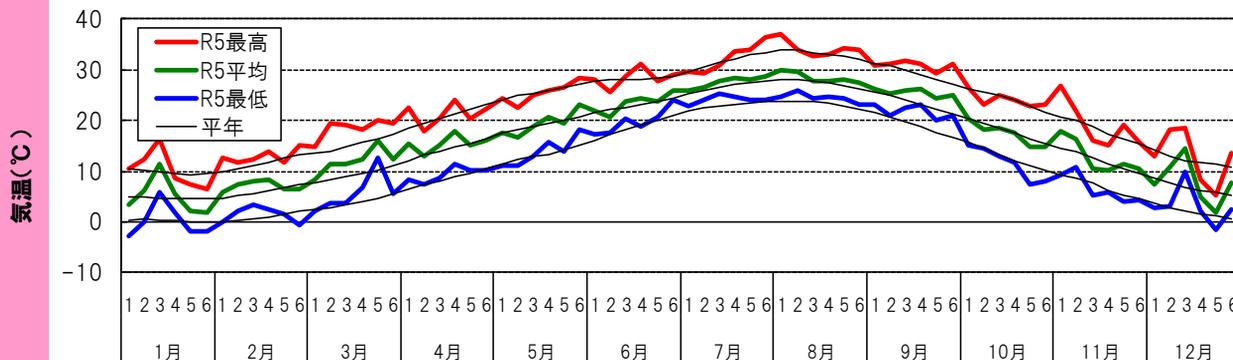


### 3 参考資料

#### (1) 令和5年の気象概況および生産概況

【年間概況】令和5年の管内の気象は、年平均気温は16.9℃(平年比106%)、年間降水量は2,178mm(平年比112%)、日照時間は1,962時間(平年比106%)であった(データ:朝倉アメダス)。

【月別概況】1月は気温の変動が激しく、とくに1月24～25日にかけては最低気温-4.7℃を記録し、一用品目で凍害が発生した。2月の平均気温は平年より1.2℃、3月の平均気温は平年より2.6℃高かった。5月6～7日にかけて風雨が強く(最大瞬間風速12.6m)、一用品目で倒伏が発生した。梅雨入りは5月29日頃(平年より6日早)であった。6月上中旬の降水量は平年より少なかったが、6月下旬から7月上旬にかけて豪雨となり(24時間降水量:6/30に186.5mm、7/3に153.5mm、7/10に290.5mmを記録)、多くの作物や施設・道路等への被害をもたらした(6月下～7月上旬の降水量は平年比264%)。梅雨明けは7月25日頃(平年より6日遅)であった。8月9～10日にかけては台風6号が接近し、明け方に最大瞬間風速20.2mを記録した。その後は好天続きで、8月の平均気温は平年より1.1℃、9月の平均気温は平年より2.0℃高く、9～11月の降水量は平年比42%と少なかった。



グラフは朝倉アメダスの半旬データを元に作成

## 水稻・麦・大豆

令和5年産の麦は、播種が順調に進み、出芽、初期生育は順調であったが、遅まきや深まきのほ場では明らかに分けつが少ない傾向となった。1月下旬から2月にかけて断続的に降雨があり、追肥、土入れ、麦踏み等の管理が遅れた。高温傾向により出穂期は平年より7日以上早くなった。成熟期は、大麦、小麦ともに平年より7日程度早くなった。収量は平年並み～やや多く、前年より少なかった。品質は概ね良好であった。

水稻は、田植えの最盛期が6月22～25日頃であった。田植え期以降の断続的な降雨や、7月10日の290mm/日の豪雨により深水や一時冠水となった影響で初期生育は軟弱徒長となり、茎数は少なく推移した。一部では豪雨により土砂流入やほ場流亡の被害も発生した。梅雨明け以降は高温多照で推移したため生育は回復し、出穂期は平年並み～やや早い傾向となった。7月1日から断続的にウンカ類の飛来が確認されたが、防除の徹底により被害はほとんどなかった。紋枯病の発生が平年より多く、中山間地の一部ではいもち病が発生した。8月下旬～9月の高温傾向により成熟期は熟期の遅い品種ほど早くなった。収量は平年並み～やや多く、品質は登熟期の高温により白未熟粒の発生がやや多かった。

大豆は、播種が7月16日頃から開始され、播種ピークは7月23～25日頃となった。播種後は異常高温・多照によりほ場が極端に乾燥したため、乾燥による出芽不良や生育抑制が発生した。8月以降は夕立など定期的に降雨があり、7月下旬播種のほ場でも比較的生育量が確保できた。高温傾向で推移したため9月下旬からハスモンヨトウ、カメムシ類の発生が多くなり、一部ほ場では10月上旬に補正防除が行われた。10月の少雨乾燥により葉の黄化や落葉開始が早く、乾燥しやすい土壌条件のほ場では特に成熟期が早くなった。開花期以降の定期的な降雨により莢数が多く概ね生育良好で、収量は平年より多くなった。品質は概ね良好で、大粒中粒が主体となった。

## 野菜

青ネギでは、令和5年の4月から6月下旬までは順調な生育であった。7月上旬の豪雨により70haのほ場が冠水被害を受け、倒伏や枯死により収穫ができないほ場がみられた。その後、土壤消毒と播き直しが行われ、10月中旬によく例年並みの収穫量まで回復した。

病害虫については、5月にハモグリバエ類とアザミウマ類の発生が多く、9月中旬から10月中旬にかけて、ハモグリバエ類とヨトウ類の被害が多かった。

令和4年産のイチゴは、令和4年7月以降の高温による苗の根傷みや令和4年12月中旬以降の低温・寒波による生育の停滞が課題となり、収量は前年対比95%にとどまった。

令和5年産は、ランナーの発生は順調で苗の切り離しは例年並みであった。育苗期は7月上旬の豪雨や高温により根傷みが散見されたが、冷蔵処理苗では順調に定植が進んだ。一方、普通促成苗は高温の影響で花芽分化が遅く、定植作業が遅れた。その後の生育は順調に推移し、2番果房の花芽分化は例年に比べてやや早く、1番果房は概ね順調な収穫となった。病害虫は、炭そ病が育苗期後半に多く発生し、ハスモンヨトウによる食害が10月に多く見られた。

アスパラガスでは、令和4年12月から令和5年1月の低温によって株の休眠期間が十分取れたため、春芽の出荷開始は遅くなったが、太芽が多く、収量も多かった。一方、夏芽については6月下旬から高温乾燥傾向が続き、7月上旬の豪雨以降は根傷みから草勢が低下したため品質が低下し、夏芽の収量が少なくなった。病害虫では、夏以降、ハスモンヨトウの発生が多く見られ、9月の台風通過後は斑点性病害の発生が増加した。

令和4年産のトマトは、育苗期から生育初期の令和4年9月中旬から11月中旬にかけて、コナジラミ類の発生が多く見られた。年内は好天で推移したため生育は順調だったが、12月中旬以降の気温低下に伴い、果実の収穫が遅れた。1月以降も低温寡日照が続き、収穫の遅れとともに、灰色かび病も発生したことから収量は前年よりやや少なかった。

令和4年産のナスは、台風による定植遅れや定植以降の乾燥により初期生育は遅れたものの、11月に日照時間が確保されたため収量は増加した。12月以降、低温、日照不足や着果負担の影響等により、灰色かび病やすすかび病の発生と樹勢の回復が遅れ、全体の収量は前年よりも少なくなった。

令和4年産のキュウリは、令和4年9月上旬から10月中旬にかけて定植された。10月、11月の好天により定植後の生育は順調であったが、11月の着果負担と12月の低温の影響で樹勢が低下し、一時期収穫量が落ち込んだ。病害虫は、コナジラミ類、アザミウマ類は前年と比較して発生が少なかったが、灰色かび病、菌核病は、12月から1月にかけての低温、日照不足で発生が多かった。

## 花 き

盆出しシンテツポウユリは、4月に定植後、活着ならびに生育はおおむね順調であったが、5月下旬から6月中旬にかけて降雨が無かったため、その後の生育が全体的に遅れ、盆に出荷できない事例が例年より多かった。また、8月9～10日に台風6号が接近したことから、収穫間近のものについては収穫を1日前倒して対応したものの、それ以降の収穫分については台風による葉キズなど品質への影響があった。

切り枝は、1月下旬の連日の低温(最低気温が氷点下以下)により、ユーカリ類は枝先端の新葉が、アカシア類は花蕾が凍害を受け、春期の出荷に影響したが、それ以降の出荷は順調であった。

鉢物リンドウは、7月上旬までは全体的に順調な生育であったが、梅雨明け後から9月にかけて高温の影響により、一部農家で開花遅延や生理障害が発生した。

花壇苗は、春季の生産および出荷は順調であった。夏季は、6月下旬から7月上旬の豪雨により一部農家で冠水被害が発生した。秋季は、梅雨明け後から9月にかけての高温の影響により、自家育苗において発芽苗の立ち枯れが多発し、鉢上げ後も活着が悪く、秋季前半の生産および出荷に影響したが、その後温暖で晴天続きとなったことで、秋季後半からは例年並に回復した。

## 果 樹

ナシ・モモ・スモモの開花は、2月中旬以降に気温が平年より高く推移したため、平年より7日程度前進化した。満開時期である3月下旬に降雨が続いたため、スモモでは結実が不良となり、ナシでは黒星病が多発した。

5月は平年並みの気温となり、ブドウの着果は概ね良好だった。カキも、着らい数が多く、日照時間が確保されたことから生理落果が少なく、着果量は平年並みだった。

6月下旬～7月中旬に雨天が続いたため、ナシやモモでは低糖度の果実が多かった。また、モモでは灰星病が多発した。特に、7月10日の大雨によりカキ、ナシ、ブドウ、イチジク等で土砂流入や園地崩壊といった被害を受けた。

8月以降の高温乾燥で、ブドウの一部では着色不良が生じ、イチジクでは、例年よりも小玉傾向となった。

9月以降も、高温傾向で推移し、降水量も少なかったため、カキは着色遅れや小玉傾向であった。気温が高い時期が長かったことから、カイガラムシ類やカメムシ類による果実への加害が多かった。

## (2) 令和5年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	目的・結果
水稻	中山間地域向け水稻新品種「恵つくし」の朝倉地域における適応性の検討	朝倉市 東峰村	「つくしろまん」に替わる中山間地域向け新品種「恵つくし」の栽培試験を朝倉市黒川および東峰村で実施した。「恵つくし」はいもち病に強く、収量性や品質も良好であった。
大豆	部分浅耕—工程播種と暗渠の閉栓による乾燥対策	筑前町	「部分浅耕—工程播種」と暗渠の閉栓を組み合わせた大豆の乾燥対策試験を実施した。試験区の土壌含水率は慣行区と比べて、降雨時には同等で少雨時には低下程度が少なく、試験区の収量は慣行区より大幅に増加した。
トマト	低価格肥料の利用がトマトの生育、品質に及ぼす影響	朝倉市	肥料価格の高騰により生産経費が増加していたため、低価格肥料と慣行肥料を用いて、生育・品質を比較調査した。低価格肥料は、生育初期に生長点の葉色が濃い時期があり、一時的な肥料の溶出が多いと考えられたものの、同等の生育であった。
花壇苗	花壇苗の赤色LED照射によるアザミウマ類被害抑制効果の検証	朝倉市	アザミウマ類の防除対策として販売されている3種の赤色LEDを花壇苗で試験し、各機器の特性や被害軽減効果を調査した。その結果、各機器の特性が判明し、設置方法別のコスト試算が可能となった。被害抑制効果は、現地では厳密な試験設計ができなかったため、明らかにすることはできなかった。
シンテツポウユリ	肥料価格高騰の影響による代替肥料への切り替えがシンテツポウユリの生育および品質に及ぼす影響	朝倉市 筑前町	価格肥料の急激な高騰により、生産経費が増加したため、現行よりも安価(約半額)な肥料を施用することによる生育および品質への影響を調査した。その結果、上位等級の割合が低下したが、追肥を行うことで、慣行の肥料と同等の生育および品質が得られる可能性が示唆された。
ビオラ	朝倉産の新しい花苗商品の開発	朝倉市	国内未流通のイタリア産ビオラ品種を既存の花苗(9cm径ポリポット)とは異なる10.5cm硬質ポットで生産し、生産性・商品性・収益性について検討した。生産性に大きな問題はなく、商品性は十分あり、収益性でも慣行区より高い試算結果が得られた。
カキ	カキ「秋王」における環状はく皮の効果の検証	朝倉市	カキ「秋王」の生理落果が多い園地で、「環状はく皮」を実施した。その結果、生理落果が減少し、収量が増加することを明らかにした。

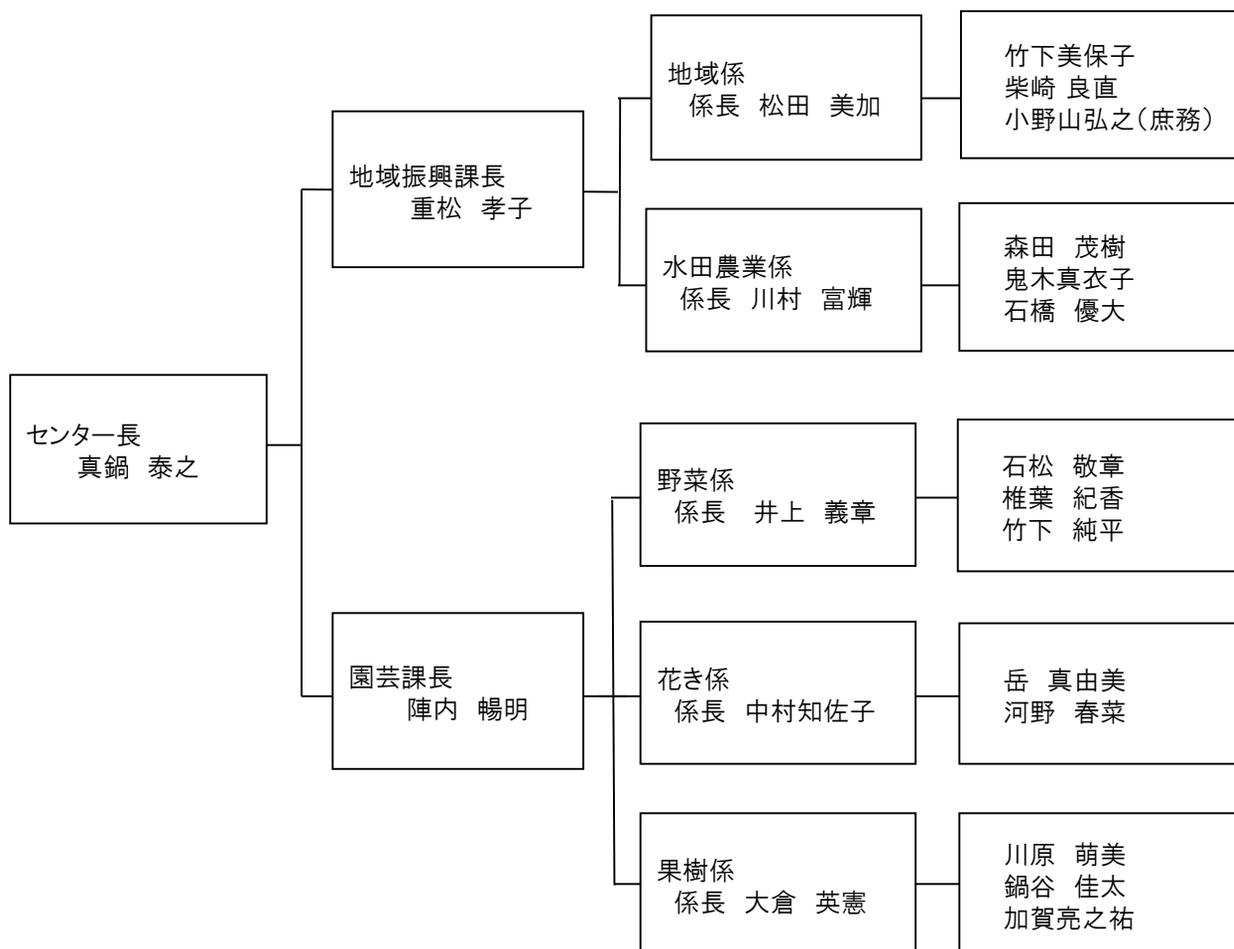
### (3) 令和5年度普及指導センター活動情報一覧

令和5年度に当普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係等	発行月
1	切り枝の栽培技術検討会を開催	花き係	6月
2	新規就農センター令和4年度閉校式及び令和5年度開講式開催 ～朝倉地域での新規就農に向けて～	地域係	6月
3	大豆新品種「ふくよかまる」の良質な種子生産に向けて	水田農業係	6月
4	果樹GAPの取組推進 ～安全安心を消費者も！生産者も！～	果樹係	6月
5	女性農村アドバイザー研修会の開催	地域係	6月
6	梨研究会が「玉水」の現地検討会を開催 ～切磋琢磨し、栽培技術を高める～	果樹係	6月
7	花壇苗の害虫軽減のための赤色LED実証ほを設置	花き係	7月
8	部分浅耕—工程播種で梅雨の合間に大豆の適期播種 ～大豆新品種「ふくよかまる」の収量向上対策～	水田農業係	7月
9	朝倉地域農業経営発展研修会を開催 ～雇用導入の条件整備について学ぶ～	地域係	7月
10	城山ナシ団地の座談会を開催 ～現状を皆で共有し、将来を考える～	果樹係	8月
11	筑前町若手農業者研修会を開催 ～経営管理のポイントについて学ぶ～	野菜係	8月
12	シンテッポウユリで安価な代替肥料の実証ほを設置	花き係	8月
13	被災果樹園の復旧支援 ～JA筑前あさくら柿部会ボランティア活動への技術支援～	果樹係	9月
14	ブランディング研修会を開催 ～農産物や加工品の価値を高めよう～	地域係	9月
15	秋王研究会 優良園視察 ～柿「秋王」の安定生産を目指して～	果樹係	10月
16	部分浅耕—工程播種で大豆の収量向上へ ～地下部の生育調査を実施～	水田農業係	10月

No.	タイトル	担当係等	発行月
17	大豆新品種「ふくよかまる」種子、生育順調！ ～県内から採種事業指導者が現地視察～	水田農業係	10月
18	女性・若手農業者を対象に先進農家視察研修を開催 ～先輩経営者に学ぶ働きやすい環境づくり～	地域係	10月
19	園児を対象にフラワーアレンジメント教室を開催 ～地元産の切り花を使って「花育」を実施～	花き係	11月
20	果樹園に気象観測スポットを設置 ～気象データに基づいた確かな栽培管理に向けて～	果樹係	11月
21	「朝倉地域新規就農者のつどい」を開催	地域係	11月
22	あさくら祭りで地元産花苗を使ったアート作品を展示	花き係	11月
23	なすICT研究会勉強会を開催	野菜係	12月
24	「イチゴ栽培基礎講座」を開催	野菜係	12月
25	一般社団法人くろがわ設立	水田農業係	12月
26	若手農業者による意見実績発表会を開催	野菜係	12月
27	「秋王」せん定講習会の開催	果樹係	1月
28	カキ栽培の軽労化を目指す ～中山間地における『「朝倉版」すぱっと主枝再生法』 の取組～	果樹係	1月
29	花き生産者を対象とした研修会を開催 ～2024年問題・IPM技術について～	花き係	2月
30	集落営農法人の持続的な運営のために ～集落営農法人研修会を開催～	水田農業係	2月
31	低価格肥料を用いたトマト栽培現地講習会を開催	野菜係	2月
32	効率的な水田農業を目指して ～スマート農業技術研究会を開催～	水田農業係	3月
33	JA筑前あさくらかき部会 第25回果樹技術・経営コンクールで受賞	果樹係	3月

#### (4) 普及指導センターの活動体制（令和5年度）





福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703216
登録年度 05	登録番号 0001

## 福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026 福岡県朝倉市柿原1110-2

TEL : 0946-22-2551

FAX : 0946-23-1452

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705004/>

E-mail : [asakura-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:asakura-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)